

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000513		
法人名	特定非営利活動法人 あおぞらの会		
事業所名	グループホームあおぞら	ユニット名	2号棟
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北15245-2		
自己評価作成日	令和2年1月10日	評価結果市町村受理日	令和2年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和2年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、平成29年3月に現在の地区に引っ越しして参りましたが、環境の変化にも慣れて来ており、落ち着いた空気が流れる様になってきました。現在では、施設敷地内の畑では、栗や芋や柿などを栽培しており、年中四季を感じる事ができ、収穫などする事で体感で感じて楽しく過ごしています。地域のサロンに入居者の方と参加する事が、年に1回ではありますが当ホームを地域の方達との交流場として利用して頂き、レクリエーションや食事などの時間を大切にしています。施設理念にある、『笑顔いっぱい 大家族』を大切にしながら、入居者の方一人ひとりの個性や気持ちや願いなどをくみ取りながら日々のケアに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者及び職員は、利用者が地域の中で暮らし続けられるよう、地域住民との交流に取り組んでいる。地域の高齢者が行方不明になった時には心配した利用者と一緒に探しに行ったり、町の徘徊者捜索訓練では職員自ら徘徊者役を申し出るなど地域貢献につなげている。高齢化に伴い買い物支援が難しくなっているが、家族からの提案で週1回移動販売車が来るようになり、利用者の楽しみとなっている。職員は利用者から生活の知恵を教えてもらうなど、持ちつ持たれつの関係性が築かれている。管理者と職員は笑顔の暮らしを支えるため、利用者それぞれの長所を見つけ、主体性が発揮できるような支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の下に、実践している。個々の介護に対する思いを職員間で確かめたり、具体的に行動できる様に意識付けを行っている		利用者は自分の父母、祖父母と同じ大切な存在との思いを職員全員で共有している。一人ひとりが笑顔で過ごせるよう、利用者本位のケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区のサロン会や町内の行事等日常的に出掛ける機会がある交流を続けている事で、顔見知りの間柄となっている		自治会に加入し、地域との交流に取り組んでいる。ホームで開催される交流会で、昼食を参加者が利用者とともに作るなど、地域の一員として交流するよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同地区のサロン会を当施設で開催し、実際に体感、触れ合う機会によって理解に繋がっている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催している。入居状況や現状を報告し、そこで出た御意見を反映している		運営推進会議の目的や意義について、改めて話し合いをしたところ、推進委員の理解も深まりホームの資質向上につながる意見が出るようになった。家族代表も毎回2名ずつ交代で、全家族が参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年に6回の運営推進会議に、町役場の職員も参加され協力を頂いている。待機者状況も報告も行っている		ホームと地域との交流会の提案があったり、研修会等の情報や案内等を得ている。ホームの行事にも担当者以外の職員も参加するなど協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会への参加や施設での勉強会にて全職員が理解している 玄関の施錠を含め日々の声掛けにも気をつけている		研修に参加した職員が講師となり、職員会等で勉強会を行っている。尊厳を持ったケアを職員全員で共有し実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から身体拘束や虐待はしないという意識を持っている。職員間でお互い声を掛け合う様にしている			

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員までは成年後見人制度・他の制度について、学ぶ機会までには至っていない。しかし今後知識を得ておくためにも、学ぶ機会としたい			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の十分な説明を行っている。入所にあたり、不安や疑問等お聞きしご理解を頂いている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等にて、ご意見を伺っている。又面会時に、会話の中から意見を伺うこともあり、改善の必要があれば努めている	利用者は日々の暮らしの中で、家族からは面会時や家族会の時、また運営推進会議で、意見や要望等を聞き、それらの意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見を出す機会を作っており、普段から意見を出しやすい、雰囲気づくりに努めている	一つの課題に対して職員一人ひとりが様々な意見を出し合い、職員会議等で全員で話し合い、運営に反映させるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境づくり、相談しやすい関係作り等に努め、職員がやりがいを持てる、職場づくりに努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会に参加し、知識の習得によりケアの向上に繋がる職員育成を目指している			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の人達と交流する機会が持てる、勉強会や研修会等で、学び取り入れる事項は積極的に勉強し、当施設のスキル向上に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の中で聴く姿勢や話しやすい環境づくりを行い、御本人が安心できる居場所に近づける様関係づくりに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話にて家族の要望などに耳を傾けています。些細な事でも、状況報告し関係づくりに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人の状態や御家族と話し合い何を必要としているのか？生活の質を向上できる為のサービスとは何か？見極めながら対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人のペースに合わせながら一緒に生活を送っている気持ちを忘れず、御家族のような関係に近づけるように努めている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人の現状を面会時や電話にて報告しながら、共に御本人を支えていく関係を築いている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所など情報収集し、可能な限り一緒に出向いたり、いつでも連絡が取れる様にしている	近隣の人や友人、知人が来訪したり、地域の祭りや花見遠足、墓参りなどに出かけるなど、本人の馴染みの人や場所への関係が継続できるよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう、座席の配置や調和を図り、皆で支え合える様に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも、施設での行事などの案内や声掛けをしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に行動や表情の様子観察しており笑顔が見れる様に努めて本人の立場に立って検討している		利用者それぞれの個性を尊重し、言葉や表情の変化を受け止めている。また、個室や入浴中など、それぞれが話しやすい状況を職員間で共有し、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴などを、御家族や御本人から伺い、暮らし方などの把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や介護支援などを用いて、職員一人一人が把握に繋いでいる			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族や御本人の話し意見や意向を把握した下で、皆でカンファレンスをして介護計画を作っている		担当者を中心に職員の気づきを課題に挙げ、定期的にモニタリングを行っている。ケアマネジャーや看護師も専門的な立場でカンファレンスを行い、家族の意見も反映した計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士できるだけ詳しく記録し情報を共有している、モニタリングを行い介護計画に活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに対応サービスを行っている			

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的地域サロンに参加、ボランティア慰問など交流支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の定期的な受診 急変時の対応など医療を受けられるよう支援している	利用者の多くが協力医をかかりつけ医としている。受診は家族が対応しているが、時には職員が同行支援している。協力医療機関から定期的に管理栄養士が訪問し栄養面での充実を図るなど、安心できる体制づくりに努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員へ相談し、身体状況を常に共有し、指示を受けながら適切な受診や看護を受けられる様支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は適切な治療が出来る様情報提供し、早期に退院できる様に共に努めている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人、御家族の思いを尊重し 穏やかに過ごせる様に話し合いながら方針を決め、対応して支援している	利用者の状態変化に応じて関係者での話し合いは行っているが、それぞれの立場において、支援の方向性を統一するには至っておらず、方針の共有が不十分である。	終末ケアに向けて、家族の意向や、医療機関との連携、ホームで出来る支援等、関係者で方針を共有するためにも、ホームとしての指針を作成し、かつ明文化することに期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的消防署の協力にて訓練をしている 救急法、AEDなどの勉強会も実践している			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的、消防署職員により 避難訓練などを行い、全職員が対応できる様にしている	夜間想定を含め、主に火災時の防災訓練を定期的に行い、地区の総合訓練にも利用者と一緒に参加している。また、非常食、飲料水など防災用備蓄をするなど災害対策に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を定期的に行い、尊重する事についての職員の声掛けの仕方や対応を学ぶ機会を多く持っている		利用者や来訪する家族等に不快感を与えないように言葉かけについて研修を行い、配慮した言葉かけや態度ができるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の方との交流を多く持ち表情などしぐさを良く見て本人の希望を実現できる様に支援している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人のペースを大切に御本人のリズムを一番に考え暮らして行ける様に支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の好みの髪形や衣類などを選べる様に見守り支援している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみの1つになる様に、ポートに献立を記載したり、御本人の好きな食べ物を把握して提供する日もある		ホームで収穫した野菜や果物、移動販売で購入した食材を使い、職員と一緒に保存食を作ったり、調理をしている。利用者の希望の献立をみんなで作るなど、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人が全量摂取できる様な食事形態で提供している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、口腔ケアをしており定期的に舌もケアしている			

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、時間を見て声掛けや誘導を実施する事で、失敗を減らし自立支援に繋げる工夫をしている		日中は布または紙パンツで過ごしており、個々に合わせたパットを使用している。排せつパターンを職員が共有し、適時に声掛けし、排せつの自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに行い、リハビリ体操やお腹のマッサージなど個々に応じ行っている			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調と御本人の気分を伺いながら、入浴を行っている		本人の希望を尊重した入浴支援をしている。安全に気持ち良く浴槽に入れるよう機械浴での支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人一人一人に合わせて午後より、ベッドにて静養して頂いたりソファに座りテレビを見てゆっくりされる方など様々に過ごされている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の方一人一人の、処方せんに目を通し確実に名前を確認し服薬支援行っている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人家事の手伝いや床のモップ掛けなどの役割を持って頂き、在宅での生活環境に近い支援を行っている			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や散歩など支援しているドライブによって、地域の行事やサロンへの参加が出来る様に協力している		地域内に道の駅、神社、レストラン、公園等があり、気候に合わせて希望の場所へ出かけている。ホームの敷地内には菜園や果樹園があり、散歩がてら、収穫や季節の移り変わりを楽しむなど、日常的な外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に2回の訪問パン販売などで、御本人で購入できるように支援している 職員と外出先などで食べ物などを購入、買い物を支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を御家族宛に職員と御本人と一緒に書いて頂いている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に応じた、作品を製作して居間や玄関や廊下などに飾り居心地よい空間を作り上げている	温度、湿度は快適な生活環境が保てるよう細かく調整を行い、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リラックスできる空間に工夫をして、入居者の方一人一人の要望などの声に耳を傾けて居場所作りをしている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ってきた思い出の物やお孫さんの写真など居室に飾っていたりご本人様の作品などを飾っている	本人の希望や家族の思いがあり、持ち込みの多い利用者、そうでない利用者というが、居室はそれぞれに居心地よく暮らせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人で、出来ることは時間を掛けてゆっくり実施してもらい現在の出来ている事が維持できる様に支援している			